

「社会健康医学」基本計画策定委員会（第5回）会議録（議事要旨）

日 時	平成30年1月24日（水）午後3時00分から午後4時30分まで
場 所	ホテルアソシア静岡 15階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：12名（敬称略） 本庶佑、鬼頭宏、佐古伊康、田中一成、鶴田憲一、徳永宏司、 中山健夫、宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本清二、山本敏博 ※宮田委員はwebによる遠隔参加 事務局 副知事 吉林章仁 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部部長代理 池田和久 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部理事 土屋厚子 健康福祉部管理局長 前島稔生 ほか健康福祉部職員
議 題	1 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）（案）について 2 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）に対する「社会健康医学」 基本計画策定委員会からの意見書について 3 その他
配布資料	議事次第 「社会健康医学」基本計画策定委員会委員名簿 資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第5回）について 資料2 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子 資料3 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）（案） 資料4 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）に対する「社会 健康医学」基本計画策定委員会からの意見書について 参考資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第4回）における 意見 参考資料2 「健康寿命をのばそう!!!!シンポジウム」リーフレット 参考資料3 社会健康医学関連新聞記事

1 審議事項

- (1) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）（案）について
- (2) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）に対する「社会健康医学」基本計画策定委員会からの意見書について
- (3) まとめ

2 審議内容

山口健康福祉部長から、資料2～4により「社会健康医学研究推進基本計画（仮称）（案）」及び「社会健康医学研究推進基本計画（仮称）に対する「社会健康医学」基本計画策定委員会からの意見書」について説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）（案）について

ア 研究の推進

- ・ 健診データには乳幼児健診もあるため、妊娠・出生から死亡まで生涯にわたるライフコースデータを記載する。
- ・ ライフコースデータを活用し、県民一人ひとりに生涯健康プランを提示し、県民の健康づくりを推進していければ理想的。
- ・ ゲノムコホート研究は、県民の健康寿命延伸のために必要な研究であるが、調査結果が出るのは20年後であり、将来を見据えた研究である。

イ 人材の育成

- ・ 育成した人材は、地域に密着した医療機関などで活躍する必要がある。大学院大学で教育して終わりではなく、地域の現場でキャリア形成できるような仕組みが必要。
- ・ 県が取り組む人材育成は、研究機関で活躍する人材ではなく、地域で実務を担う人材であることを目指すべき。
- ・ 目指すのはローカルなMPHであり、卒業後、県内で長く仕事を担っていくキャリアにきちんと組み込んでいく必要がある。現在の職場を退職、休職しないで大学院大学で学ぶことができる仕組みとすることが重要。

ウ 成果の還元

- ・ 早期に取り組むことができる研究に着手し、研究成果を随時、県民に還元すべき。
- ・ 最先端の研究成果を地域の医療現場で活用することにより、県内の医療水準が全体として向上することが期待される。

エ 拠点となる仕組みの構築

- ・ 大学院大学で修士を取ることは、京都大学の社会健康医学系専攻でも一定のニーズはある。米国ではMD（医学博士）とMPH（公衆衛生学修士）を取ることが主流となっている。統計や疫学の知識は臨床研究に有用であり、社会健康医学に特化した大学院大学を早期に設置すべきである。
- ・ 研究の成果を適宜県民に還元し、地域の医療水準の向上に資するためには、研究推進の拠点設置に当たって、医療機関に近接した環境が必要である。

(2) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）に対する「社会健康医学」基本計画策定委員会からの意見書について

- ・ 特段の意見なし。

(3) まとめ

- ・ 基本計画の修正及び意見書の作成については、本席委員長に一任することについて、了承を得た。